物の映像を観ることが人のやる気に与える影響の解明

1230431　岡林　梨子
高知工科大学　経済・マネジメント学群

研究背景

動物との触れ合いを通して癒しやストレスの低減、やる気の増加といった効果を得られると言われている。しかし実際の触れ合いがなくとも、動物の写真や映像を見ることでも精神的な効果を得ることができるが、やる気に与える影響については明らかになっていない。そこで本研究では動物の映像を見ることによりやる気の変化がどのように起こるのか、起こる場合はどのような仕組みなのかという疑問が存在する。

研究目的

動物の映像を見ることが私たちのやる気の向上に与える影響、またそのメカニズムを明らかにし、高齢者施設や教育現場などにおいて、人々のやる気の向上を促す取り組みを提案する際の基盤になることを目指す。

調査・分析方法

アンケート会社を介して男女 10 代から 60 代の 1231 名を対象とし、やる気を測定するアンケート（やる気スコア）、ポジティブ・ネガティブ感情を測定するアンケート（日本語版 PANAS）を実施した。アンケート調査は子犬、成犬どちらかの映像を視聴してもらう前後で行った。また視聴した感想により、オキシトシンの分泌も間接的に測定を行った。収集したデータにより、各レベルの変化を分析した。

分析結果

子犬、成犬の両群においてオキシトシンの分泌量に比例してポジティブ感情、やる気の改善効果は高くなっていた。また被験者の犬に対する好意があるほどオキシトシンの分泌量は増加しており、比例してやる気の改善効果も高くなっていた。

考察・結論

子犬、成犬の両群において映像を観ることによりやる気は向上することが明らかになった。しかしその中で細分化してみると、犬に対して好意を抱いている場合と好意がない、どちらでもない場合ではその効果に著しい差があり、好意を抱いている方がより高い効果を得られることが分かった。本研究の課題として、対象について好意がある場合以外でのオキシトシンとポジティブ感情、ネガティブ感情との関係性については明らかにならなかったため、調査する必要があると考える。